

No. 307【2018年5月25日配信】

文化財課の仕事(担当:児玉)

こんにちは。文化財課の児玉です。今回は、文化財課の仕事について紹介したいと思います。

文化財課は、駅前庁舎の3階、エレベーターを上がったところの正面にあり、カウンターでお客様の相談を開庁時間中、毎日受付けています。一番多くいただく相談は、市内で建築や開発を計画されたり、不動産取引を検討されたりしている方から、計画地が埋蔵文化財包蔵地(遺跡)の範囲内に該当しているかどうか、発掘調査が必要かどうかの問い合わせです。

このような窓口業務のほかにも文化財課では、縄文遺跡群の世界遺産登録に関する業務、浪岡城跡や高屋敷館遺跡の史跡整備、市内に点在する文化財や説明板のパトロール、「森林博物館」「あおり北のまほろば歴史館」「縄文の学び舎・小牧野館」といった展示施設の管理・運営、開発行為に先立つ埋蔵文化財の発掘調査、獅子踊などの民俗芸能団体への支援など多岐にわたります。

中でも大変なのは、街中に出没する特別天然記念物ニホンカモシカの保護です。

先月24日には、朝から、青森市内の某中学校の敷地内にカモシカがうろついているとの通報。ピンピンしているとのこと。その時は、5人でチームを組み捕獲作戦。現地に赴くと、その体は大きく、ツノが長く、そして、鼻息が荒く、攻撃性の高いカモシカでした。

こちらに突進したかと思えば、Uターンを繰り返して威嚇し、こちらが一瞬ひるんだ隙(新人2名が初体験)に突破されてしまいました。カモシカが向かった先は、車の往来の激しい国道です。今度は、スタッフを国道側に配置し、人のいない方に追い込みながら、住宅の敷地内にある小屋までカモシカを誘導。その小屋を5人が囲むようにして、距離を縮めていきました。カモシカは、小屋を中心にぐるぐる回っています。そして、一人の職員がタックルしてカモシカを倒し、残りのスタッフで、前足、後足、頭(ツノ)を押さえ、最後に手足を縛って、捕獲完了。

その後、山へ解き放つのですが、今回のカモシカは逃げずに攻撃してきました!しかも、タックルして捕まえた職員を狙って。カモシカ保護歴23年で初めての経験です。

このように、文化財課では古い資料を扱うだけではなく、命がけでカモシカの保護も行っているのです。また、最近では、子ども達の興味・関心を引き出すことを心がけています。例えば、2年前から「こども民俗フェス!」を開催し、今年は浪岡城跡をテーマに「スポーツ鬼ごっこ合戦・浪岡の陣」や「陶磁器クッキー教室」といった子供向けのイベントも実施する予定です。これまで大切に守られ続けてきた文化財を、未来に伝える次世代が育ってくれることを願っています。